

## メッセージアウトライン

### ルカ 2 : 1 ~ 20 「この方こそ主キリストです」

[1~3] 「そのころ、全世界の住民登録をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った」

イエス・キリストの誕生は架空の物語ではなく、歴史的出来事である。

- ①ローマ皇帝アウグスト (BC31~AD14年在位) による住民登録の勅令
- ②クレニオがシリアの総督であった時 (BC7~BC2年) の最初の住民登録
- ③ユダヤのヘロデ大王の治世中 (BC37~BC4年在位) に誕生。→マタイ 2:1

これらを基に計算していくと BC 4 ~ 5 年がその時となる。

[4~7] 「ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼はダビデの家系であり血筋でもあったので、身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」

ヨセフはあのダビデ王の子孫であったが、今はガリラヤのナザレという田舎町で大工をしている身であり (マタイ 13:55)、マリヤも同じ町のごく普通の女性であった。(しかし、その家系はやはりダビデ王につながる→ルカ 3:23以下) もし、この住民登録がなかったなら、彼らはそのままガリラヤのナザレにいたことであろう。これも神のご計画のうちにあったことである。

預言の成就

- ①人類の始祖アダムが罪を犯した直後の原福音の成就 ……創世記 3:15
- ②ダビデの子孫として生まれる…Ⅱサムエル 7:12~13,16
- ③ユダヤのベツレヘムで生まれる…ミカ 5:2 (ミカは BC 8 世紀の預言者)
- ④処女より生まれる…イザヤ 7:14 (イザヤも BC 8 世紀の預言者) →マタイ 1:20~23

[8~20] 「さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。御使いは彼らに言った。『恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです。』すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。『いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に平和が、御心にかなう人々にあるように。』御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。『さあ、ベツレヘムに行つて、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。』そして急いで行つて、マリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごを探し当てた。それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら

ら帰って行った」

王や大臣や学者や貴族ではなく、当時の羊飼いのような社会の最底辺の見捨てられているような人々に一番最初に救い主誕生のすばらしい喜びの知らせが告げられた。これが神のみこころであった。羊飼いたちは多くの天の軍勢が現れて神を賛美するのを見た。羊飼いたちは救い主誕生という喜びの知らせを聞いて、夜中であるのに捜しに行った。そしてついにマリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。彼らは単に聞くだけで終わらせるようなことはしなかった。後にヘロデ王や王に仕える学者や祭司もこの救い主誕生の知らせを聞くことになるが、学者たちは行かず、ヘロデに至ってはこの救い主を殺そうと計った。→マタイ2:13, 16

これが神に逆らうこの世のやり方である。この世は歓迎しなかったけれども、確かに神はこの世を愛し、罪の暗闇の中でうめき、苦しんでいる者たちを救うために御子イエスを送ってくださった。このイエスはユダヤだけでなく、全世界の救い主である。そして彼は私たちの罪の贖いのために十字架への道を進まれるのである。神の救いは私たちの賢さ、学歴、社会的地位、知識、教養などのゆえではなく、ただ一方的な神の恵みとあわれみによって与えられるのである。私たちもこのすばらしい救い主イエスを送ってくださった主なる神を羊飼いたちのように喜び賛美し、感謝する者になりたい。